
ときどきまじめな水姫の詩集

水の星の愚かな姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ときどきまじめな水姫の詩集

【著者名】

Z4357Y

【作者名】

水の星の愚かな姫

【あらすじ】

一話完結の詩集です。

自分の考えみたいな物を書いているのによろしくお願いします。

「頑張れ」

「頑張れ」

何気ない一言が胸に突き刺さる

「頑張れ」

頑張ってるよ。

とは言えず言葉を飲み込むだけ

「頑張れ」

うるさいな。

「ううといいな」

「しょうがないな」

「まあいつか」

「も

ういいや」

僕の本音はどれだろう?

どうしたらいいか分からない?

僕は誰?

答えも何も分からないから

僕はただただ突き進む

答えを探す時間が勿体無いから

僕はこのまま突き進む

それでいいのかは分からぬけれど

ただただ僕は突き進む

悩んで、立ち止まつてしまつても
また歩みだせばいい

明日には笑えるよう

「注射針」（前書き）

毎日更新を目指します！

「注射針」

注射を怖がるあの子

怯えて針を見る視線

「ひわいこひわいこひわいこ

高い声で呟く可愛いやの子

守つてあげたくなるのは、なぜだらけ。

抱きしめてあげたくなるのは、なぜだらけ。

注射を終えて騒ぐあの子

楽しそうに喋りをすむ可愛いやの子

「やうだねー

楽しそうに男に笑いかかるあの子

こんなに胸が苦しいのはなぜだらけ。

そう、あの子の事が大好きだからだ。

僕はあの子が大好き

あの子は…？あの子は僕の事が好き？

僕にはあの子が必要

あの子は…？あの子には僕が必要？

「君かっこいいー」

あの子は僕を見ていない？

こんなに好きなのに…愛しているのに…

あの子は誰を見ている？

ナゼ ボクラ ミナイ？

何かに怯えるあの子

一点にそそがれる視線

「いやああああああああああああああああ

高い声で叫ぶ可愛いあの子

君はもう僕しか見ない

君はもう他の誰も見ない

僕が、僕だけが……

なのに、こんなに虚しいのはなぜだろう

この感情はなんだろう

真っ赤に染まった可愛いあの子

もう、僕の大好きな笑顔で笑わない

目を閉じたまま……

ナゼ メヲ トジテイル？

ナゼ ボクヲ ミナイ？

「うわあああああああああああああああああああああああああああああ

真つ赤に染まつた自分の手

聞こえてくる車の音

世界が壊れていく

田の前が暗くなる

暗闇の中で、僕は…

「愛してゐよ……」

君の事が スキ、ナンダ

「注射針」（後書き）

怖いですね。解釈は自由にしてください。

あ、この話は今日、注射してある時に思いつきました。

「私は世界で何番田?」

あなたにとつて世界で私は何番田? ？

何番田に可愛いでしょうか

何番田に優しいでしょうか

何番田に面白いでしょうか

何番田に大切でしょうか

100番田とか言わないで下さい

ショックで3田寝込みます

10番田とか言わないで下さい

中途半端でへこみます

1番田とか言わいで下さい

嘘じやないかと疑います

1番田中、10番田中、100番田中嫌
めんどくせー私です

何番田なら良いのでしあつ

「何番なんて決められない」

なんて言われたら

嬉しそうに飛びます

「軍手の次ぐらいかな?」

なんて言われたら

悲しそうに遺書書きます

めんどくせー私です

だつてだつて、あなたの事が好きなんだもん

めんどくせー私です

だつてだつて、傷つきたくないんだもん

そして期待して聞きます

『私は世界で何番目?』

「私は世界で何番目?」（後書き）

友達とのメールの中で「いつこの話が出てきたので書きました。」

「れずびあん」

- 私はれずなの？
- あの子を見るとドキドキする
- 私はれずなの？
- あの子が他の子と話すと嫉妬する
- あの子は皆の人気者
- 「好きー」とか平氣で言つよつた子
- 私の物じゃないのに
- なんだかとてもイライラする
- だから私は君に嘘ついた
- 「大好きー」
- 冗談半分、本氣半分で言つた言葉

返ってきた言葉は

「私も大好きだよー」

君の『好き』と私の『好き』は違うのかも知れないけど

私はれずなの?

違うと願いたい

なのに、胸が苦しい

君は鈍感だね、私の気持ちに気づかないなんて

君を独りじめしたい

だから私は君に言つの

「君は私の物だよ」

〔冗談半分、本気半分で言つた言葉

返ってきた言葉は

「私は私の物だよー」

君の言つ通つだよ、君は誰の物でもない。

私の物でも……ないんだ

私は君と、この微妙な関係を保ちたい。

思いを伝えて、嫌われるのが怖いから……。

「れずびあん」（後書き）

学校で、れずといつ噂が立っている一人を思いだしたので書いてみました。

「つんでれ教師」

「アンタ達のために勉強教えるんじゃないんだからねっ！」

今日もシンデレ、皆のアイドル田中先生

体育祭の時も

「別に勝つてほしいとか思わないんだからねっ！」

文化祭の時も

「別に感動なんて…頑張ったなんて思わないんだからねっ！」

今日もシンデレ、明日もシンデレ

皆のアイドル田中先生

転入生が来た時も

ツンツンデレデレ田中先生

「が、学校生活楽しんでなんて思わないんだからねつー！」

転入生が困ってる

「喧嘩……？すればいいのよ、それで怪我すればいいのー！」

そんな事を言いながら、バンソーポーを持つてゐる田中先生

「熱がある？馬鹿は風邪ひかないって言つたのにねー！」

そんな事を言いながら、氷や体温計を持つてくる田中先生

今田も明田もつぶつんでれでれ

『デレもいいけジンもいい

皆のアイドル田中先生

「だ、大好き……一回しか言わないんだからねつーーー！」

皆のアイドル田中先生

「つんでれ教師」（後書き）

色々今日の出来事を混ぜて見ました

「腹黒少女」

誰かと誰かが喧嘩した
「ごめん正直じつでもいい
だけどー」
「リ笑つて「どうしたの?」
当然愚痴を聞かされる
「ごめん正直鬱陶しい
だけど顔をしかめて「うわうわ~」
あの子に言われた「チクるよ」と
あらあら大変最悪だ
だけど落ち着いて…あること無ことと吹き込むの
だけど落ち着いて…最善の手を先にいつの
そして私の腹黒を

正直みんな引くと思うよ

めんどくさい目に合いつ前に

全部全部終わらせる

私がいつつもやる事は

相手の矛盾を正確に責める

これだけで大抵の人間は

皆 皆 折れてしまう

さてさて私の腹黒さ

まだまだ底がしれないよ

さてさて次の獲物は...?

「腹黒少女」（後書き）

自分の腹黒さにビックリしてしまったんで
男子に腹黒いと言わされたので

「坂道」

もう一度だけ、あの坂道を走りきりたい
転んで膝すりむいても、気にしないから
…

気づかないフリをした私がいた

面倒だと避けてた私がいた

自分の事が分からなくなつて

人の事が見れなくなつて

鈍感なフリをした私がいた

上辺だけの笑顔の私がいた

自分の事が大嫌いになつて

人の事が憎たらしく思えて

やつと本音を言えた私がいた

君にぶつかれた私がいた

でももう手遅れで

君を傷つけていて

坂道から転げ落ちた私がいた

そんな私を置いて、坂道を登つて行く君が見えた

「行かないで」と泣いている私がいた

「別にいい」と強がっている私がいた

どれが自分の本音なのか分からぬ

嘘だらけの私がいた

気づけば傷だらけだつた

転びながら、躊躇^{つまづ}ながら

必死に坂道を走る私がいた

遠くの方に君が居るのが見えた

走る速さが変わっていくのが分かった

転ぶと痛さが倍になった

でもそんなのは気にしない

息をあげて傷だらけの姿で

坂道を登る私がいた

そんな私に君は笑いかけた

傷だらけの自分が、色の無い世界が

変わっていくのが分かった

傷だらけの自分や、色の無い世界が

少しだけ好きになってしまった

「坂道」（後書き）

何となくこういう詩が書きたかったんですね！
後悔はしていない！！

「私の妹は人間です」（前書き）

もしかしたら続きを書くかも知れません

「私の妹は人間です」

皆さん驚かないで聞いてください

「私の妹は人間です」

人間なんです、私の妹。

私はこれを聞いた時、腰が抜けそうになりました

だつて人間ですよ？

え？当たり前だつて？

おかしい事を言いますね

私の家族は、父、母、兄、妹、私の5人ですが

妹以外は全員ロボットです

ほら、おかしいでしょ？

え？ シッ 「みゅう」が多すぎるのって？

だったら説明してあげます

私の名前は「A 004」

とある科学者に作られました

私達の家族は皆、ロボットです

ある日、母が苦しみだして

口からオイルを大量に吐きました

しばらく苦しみだ後、出てきたのが妹です

そして妹は人間。

私達は驚きました

それから15年が経ちました

私達はロボットなので何も変わることはありません

ですが妹は大きくなりました。

顔は…まあ整っているのですが、問題は性格です

なぜだか、私達を避けるのです

「頭おかしいでしょー!？」と怒鳴られ、ショックで

父は少しおびてしましました

妹は何を言っているのでしょうか

私達から見れば、珍しいのは妹です

急に泣き出すし、急に笑い出す

これが感情と言つ物なのでしょうか

人間は面倒ですね

私はこれから、人間を研究しようと思っています

皆さん、私の研究日記

興味があるなら見てください　ただしロボットに限る

「私の妹は人間です」（後書き）

思いつきで書いた！

後悔はしていない！

「質問です」

さて質問です

『あなたの大切な人は誰ですか?』

目をつぶって思い浮かべてください

浮かびましたか?

家族、友達、恋人…色々な答えがあるでしょう。

もしかすると、「分からぬ」という人も居るかもしません

そんな人は、もう一度よく考えてみてください

誰かがあなたの事を支えてくれてはいませんか?

誰かがあなたの事を守ってくれてはいませんか?

「そんな人居ない」という人は

もう一度よく考えてみてください

あなたが毎日笑っていられるのは誰のおかげですか?

あなたの願いが叶っているのは…あなた自身の頑張りだけではないでしょ？

さて質問です

『あなたの親友は誰ですか？』

同姓でも異性でもいいと思します

「親友なんて居ない」という人はもう一度よく考えてみてください

あなたを毎日笑わしてくれるのは誰ですか？

あなたが悩んだ時傍に居てくれたのは誰ですか？

「どうでもいい」という人はもう一度よく考えてみてください

誰かと本音でぶつかった事はありませんか？

なぜか腹が立つたことはありませんか？

素直になれずに、嘘をついた事はありませんか？

嫌われるのが嫌で、ずっと黙つたままだつた事はありませんか？

離れるのが怖くて、でも相手がどう思つてるか分からぬ

そんな風に、不安になつた事はありませんか？

そんな風に思つたら、もつそれは立派な親友です

そんな風に思つたら、あなたはもう、その人の事が大好きです

今からでも遅くないかもしません

全部伝えてみたらどうでしようか？

自分に素直になれずに、相手の気持ちを見ない

それが人間です

あなたが、「もう面倒だ」と言って、大切な何かを捨てるのも

あなたの自由です

でも、それをあなたの隣の誰かが、望んでいると思いますか？

「質問です」（後書き）

逃亡日記さんリクエスト「友情」です。

どつかといつと、「絆」って感じになってしまったので

また今度友情ネタ書きますわ

「大好きだから」

入学してからずっとずっと

君の事が大好きです。

一日惚れだつたんです

初めて君を見た途端、

君を好きになりました

初めて話したときの優しい笑顔を見て

ますます好きになりました

君の事を少し知つて

もっと好きになりました

私は頑張りました

君の好きな音楽、スポーツ

君に少しでも近づきたくて、君に少しでも気にしてもらいたくて

いっぱい勉強したんです

今はたくさんいる友達の一人でも

一ヶ月後には何か変わるかも知れないから

私はまだまだ頑張れます

少し君に近づけたかな?と思つてきた頃

君は私に言いました

「俺、実は の事好きでや……」

耳を疑いました

悪い夢だと思いました

「お前、仲いいじゃん?」

夢じやないと気づきました

君の事が大好きで、今まで頑張つてきたのに

やつと君も私を見てくれると思ったのに

やつぱり私は「友達」でしかないんですね

私は君が好きで、君はあの子が好きで……

ビービー君は私を見てくれるのですか？

何で、ようつによつて私に？

何で私に相談するんですか？

私は、ビービーといいんですか？

「頑張れ」とも「やめときなよ」とも言えません

君を好きにならなければ良かつた

あの時に、君の事を忘れればよかつた

君が見てこるのはあの子なのに

なのに、こんなに会いたいなんて

君の事が大好きだから

私は今日も頑張ります

君の事が大好きだから

幸せになつてほしいのです

だから私は決めました

君の事は忘れます

今日もにっこり笑つて「相談聞くよ」

君の相談を聞きます

これが私の選んだ道…

…私は間違つてますか？

「大好きだから」（後書き）

リクエスト「恋愛」完了しましたー

恋愛ってより「片思い」になつたけどw

「それだけ。」（前書き）

短いですが読んでください。
自分の思いを書いてみました

「それだけ。」

自分の人生だから、自分のやりたい事をする。

自分らしさが分からなくても、適当に生きる。

それが自分らしさだ。

とにかく笑う、元気にマイペースに生きる。

涙を見せない。なんて言わない。

自分の人生だから、自分の思うようにする。

今、自分で個性だと思つてゐるもの

全部捨ててみる。それでも残つた物が

私の捨ててはいけないもの。無くしてはいけないものの。

誰に何と言われようと、自我は捨てない

自分を曲げるくらいなら、消えた方がマシだ

嫌いな物は嫌いでいい。好きな物は好きでいい。

疲れたら休めばいい。そしてまた走り出せばいい。

一度きりの人生だから、後悔なく生きる。

それだけ。

「それだけ。」（後書き）

あと、てすと期間なので更新率落ちます、すいません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4357y/>

ときどきまじめな水姫の詩集

2011年11月26日21時50分発行